

With

秋
2006
vol.38

ウィズセンター情報誌

- 女性のチャレンジ トーク&トーク
能城律子さん、山口裕視岡山県副知事
- おとなの土曜塾（第1回）
「江戸に学ぶ『おとな』の粋」 神崎宣武さん
- 参画社会へ Let's Go !
メンズリブフォーラム岡山
- ウィズフェスティバル2006



「夫へ」 いなやかずこ 稲家和子さん（久米郡美咲町）

平成17年度 絵てがみコンテスト ウィズ大賞受賞作品

第1部

講演 「人生に『失格』はない」

講師 能城 律子さん (国際ラリードライバー)



第1部では2度のガンを克服し、現在も過酷なラリーにチャレンジし続けている能城律子さんによる講演が行われた。

母との約束

「何があっても人の責任にはしない。愚痴は絶対に言わない。自分で出来ないことはしない。という3つの約束を守れば何をやっても良い」と母から言われ、今でもこの約束を守っている。

女性起業家の先駆け

20代で貿易会社を設立。「50年前は、社会全体が男社会であり、女性が社会人として生きていくためには、並大抵の努力では認めてもらえない時代であった」と当時を振り返る。その後、38歳になるまでに世界124カ国を1人旅し、世界各地の母と子を見てきた経験を生かし、世界初のホテル内ベビールームをホテルニューオータニに開設し、現在も続けている。

ガンを克服

35歳で子宮ガン、42歳で乳ガンと2度のガンを克服し、その後遺症を抱えながらも、自分がやりたいことに向かってチャレンジし続けている能城さん。余命3年と宣告された

きも、「まだ3年もある。感謝しながら生きていこう。病と闘うのではなく、病を受け入れていこう」と考えたという。

パリ・ダカール・ラリーへの挑戦

58歳で国際A級ライセンスを取得し、世界で最も過酷なモータースポーツ競技といわれるパリ・ダカール・ラリーに60歳で出場。

レースへの参加のきっかけは「まだ行ったことのない国へ行ってみよう」という強い気持ちから。周りからは「何でも60歳からパリ・ダカールなの?」、「死ぬからやめなさい」とも言われたが、「肉体は病んでいても、心さえ健康であれば走れるんだ」ということを世界中に見せたかった。

実際にレースに出場した感想を「苦しいことはなかった。楽しかった。車の中は摂氏50度、朝は皮膚を刺すような寒さだが、大自然の偉大さ、不思議さに触れ、レースはやめられなくなった」と語る。

そして、70歳の現在も、能城さんは国際ラリーに挑戦し続けている。

第2部

対談 トーク&トーク 「私の挑戦」

講師 能城 律子さん & 山口裕視 岡山県副知事

第2部では、能城さんと7月4日付で国土交通省から岡山県に赴任したばかりの山口副知事との間で「私の挑戦」と題したフリートークが行われた。

山口副知事も運輸という男性中心の世界で苦労した経験を持ち、また、このたびの副知事就任では、子どもを東京に残しての単身赴任という新しい課題への挑戦が始まったところである。

競争社会での愛情、助け合い、感謝について

山口副知事 近年、競争社会と言われ、社会全体がぎすぎすした感じがありますが、レースという本当に過酷な競争の世界におられても、能城さんは常に愛情や助け合いを大事にしていますね。

能城さん レースには絶対に守らなければならないルールがある。大自然の中でのレースで生き抜くためには、互いに認め合い、許し合わなければ生きていけません。

山口副知事 また、能城さんのお話の中には常に感謝という言葉が出てきますね。
能城さん 生きていくためには絶対に感謝の気持ちを忘れてはいけません。この気持ちがあって、人間は成長していけるのではないのでしょうか。



国際貢献・国際協力について

山口副知事 ラリーに出場している間も、海外の子どもたちに物資を届けるボランティア活動をしていると聞いておりますが。

能城さん レースに参加するようになって、アフリカ大陸の内陸部の人々の生活を実際に見るようになり、子どもたちに文房具が不足していることを知り、鉛筆やノートを配ることをはじめました。また、ホテルで余った石けんを綺麗にして、病院に配ることも行っています。

山口副知事 国際的な援助を考える中で、何が本当に必要かを把握したうえで、必要な場所に届けるということは非常に難しい。能城さんのように自分の目で見られた方が一番確かだと思います。

能城さん 物資が港に山積みされていたり、関係者にとられてしまったり、必要な人に届かないことはよくあるので、私は必ず自分の手で届けることにしています。

2007年問題で話題の団塊の世代の方々を対象にした「おとなの土曜塾」（3回シリーズ）が行われ、第1回目は地元岡山県出身の民俗学者神崎宣武さんから、江戸についてご講演いただきました。

講演「江戸に学ぶ『おとな』の粋」

講師 神崎 宣武さん（民俗学者）



プロフィール

1944年岡山県生まれ。武蔵野美術大学在学中より宮本常一に師事。以後、国内外の民俗調査・研究に従事。現在、「旅の文化研究所」所長・文化庁文化審議会専門委員、東京農業大学客員教授などをつとめる。岡山県宇佐八幡神社宮司でもある。

主著に、『盛り場の民俗史』（岩波新書）、『観光民俗学への旅』（河出書房新社）、『「うつわ」を食らう—日本人と食事の文化』（NHKブックス）、『江戸に学ぶ「おとな」の粋』（講談社）、『江戸の旅文化』（岩波新書）、『「まつり」の食文化』（角川選書）などがある。

はじめに

人生は、はじめと終わりを大事にしなければいけません。それは、途中でどうでもよいということではなく、途中が一直線な人生は誰にもあり得ないからです。途中は、人それぞれでしょう。また、はじめにはもう戻れないわけですから、如何に終わりのことを考えて生きていくかが我々共通の問題であります。これを年金や福祉制度の問題としてではなく、江戸時代の人々も同じであったであろうという視点から考えてみるとどうなるでしょうか。

老入

老後という言葉は戦後の行政用語であります。あまり良いイメージの言葉ではないですね。江戸時代は老後のことを「老入」といいました。これから入る、入学するという前向きなとらえ方をしていました。皆さんも良い「老入」をすることを目標にしてはいかがでしょうか。

江戸ブーム

最近、江戸ブームといわれておりますが、その理由は、我々が工業化、機械化、情報化、高学歴化と歩いていくうちに何か置き忘れてきたものがあり、その何かが「江戸」にありそうだからではないでしょうか。

年貢制度と農間稼ぎ

我々が江戸から学ぶ前に、江戸時代の暗いイメージを取り除く必要があります。「庶民は年貢制度・身分制度に圧迫されて、生活は困窮を極めた」と一般的にいわれております。確かに身分制度はかなりの拘束力を持っていたといえますが、年貢制度については、我々は歴史の片面しか見ていないといわざるを得ません。年貢制度は主として水田稲作を対象としたものであり、それは半年間の労働に対するものでしかありません。しかし、農民は残りの半年間を遊んでいたわけではなく、大工、左官、杜氏、行商、芸人として働いておりました。農民といっても専業の農民ではありません。皆、半農半工、あるいは半農半商、半農半芸であります。そしてこれらの農業以外の半分の稼ぎには年貢は掛かっておりません。こ

の農閑期の稼ぎを農間稼ぎ（作間稼ぎ、駄賃稼ぎともいった）といい、これら副業での稼ぎがあったからこそ、村々の氏神様への御輿の寄進やお寺さんへの梵鐘の寄進ができたのです。古くから残っている御輿や梵鐘は、そのほとんどが元禄期（1688～1703）または文化、文政期（1804～1830）のものであります。生活にそれだけの余力があったと考えてよいのではないのでしょうか。

旅と食

生活に余力があれば、人々は次は何をするのでしょうか。旅と食です。人は懐具合が暖かくなると旅をしたくなります。人には食欲、性欲だけではなく、旅欲というものがあるのではないのでしょうか。旅はハレ（晴れ晴れしいなど非日常的であることを表す）の行動様式です。一方、病気になることを気枯れといい、気枯れには疲れや気持ちの落ち込みなども含まれます。気枯れるとハレの行事を行いました。それは旅をすることであり、ごちそうを食べることであり、祭りをするすることあります。ケ（日常）からの解放です。気が元に戻り元気というわけです。当時、どれくらいの数の人々が旅をしていたかということ、旅先として最も一般的であった伊勢参宮を例に挙げますと、推定人口が2千万人のうち、年間100万人から120万人くらいが伊勢参宮を行っています。それは現在でいうと海外旅行の人口比に匹敵する数です。

心づけ

今の日本はおとなだけがゆっくり過ごせる場所がなくなっていますが、夫婦や友達といいお店でゆっくりと楽しんで帰るとき、皆さんはどうされますか。

日本ではチップの制度がなかったといわれていますが、江戸時代には「心づけ」ということが行われていました。「心づけ」は金銭だけをいうものではありません。金額の大小でもありません。何らかの感謝の気持ちを表すものとして行われていました。そのことは、旅をした当時の庶民の日記帳にも記されています。「心づけ」はおとなのなすべき配慮です。我々は若い者に対して、「心づけ」の後姿を見せていかなければいけないように思います。

参画社会へ Let's Go!

「仕事だけが男の生き方ではない」 メンズリブフォーラム岡山

1994年に全国で2番目に発足した「メンズリブフォーラム岡山」。「メンズ」ではあるが会には女性も参加しており、月1回の例会では、男性に関する問題をテーマにした様々な講演会や講師を交えての自由、闊達な議論などが行われています。テーマ等の企画・立案は、会の設立当初は丹原恒則さんが、現在は市場尚文さんが中心となって行い、精力的な活動を続けています。その「メンズリブフォーラム岡山」の世話人の方々に参加のきっかけや感想などを伺いました。

たんばら つねのり 丹原 恒則さん

以前、東京で共働きをしていた時、育児休暇を約4年間取り、また、「男の子育てを考える会」など男性問題に関わるグループで活動していましたが、高齢でありながら農業に励む妻の両親のことを考えて、妻の古里の岡山に転居しました。その後も岡山から京都や大阪のメンズリブ研究会に通い続けていましたが、岡山に男性問題に取り組むグループの必要性を感じて、仲間と一緒に「メンズリブフォーラム岡山」を立ち上げました。



自分たちで作った家庭新聞を親戚や身近な人に20年近く配り続けるうち、次第に自分たちの生き方が認められてきました。メンズリブフォーラム岡山に参加した事で、自分の生き方・考え方が、いろいろな人に認めてもらえたことが嬉しい。子育て中に始めた、幼児から大人を対象にした授業「すずめのがっこ」の活動もライフワークの1つです。

かながわ えいじ 金川 栄治さん



男性同様、女性も仕事を続けることの大切さを結婚前から感じていたので、結婚当初から家庭の事は何でも共同でこなし、妻をサポートし続けてきました。地元高松の男女共同参画のイベントに参加する中で、市場尚文さんの講演を聞いて、岡山のメンズリブフォーラムに参加するようになりました。パートナーともよく一緒に参加していますが、とにかく本音で話せることが楽しい。男性が本音で話せる場所は、まだまだ少ないと思います。

発足当初は、男の生き方を探る事がテーマでしたが、今はニート・フリーター問題、熟年離婚、自殺と言った社会問題にも取り組み、また、「メンズリブフォーラム岡山」の目指す役割を若い世代へ繋げていく事も考えています。絶えず変化する時代の中で、「性別にとらわれない生き方に気づき、自分の生活を楽しむための創意工夫を伝えて行くことがメンズリブフォーラムの役割です」とメンバーの皆さん。これからも、仕事だけではなく、魅力ある男女のライフスタイルを提案し続けていくメンズリブフォーラム岡山。「2007年問題も真近に迫り、年齢・性別に関わらず、この会の活動の楽しさや居心地のよさをみんなに知ってもらいたい」と語られました。

(取材：情報コーナー 赤田)

きなみけんじろう 木浪健二郎さん

独身の頃から性差別・年齢差別について考えていたこともあって、パートナーと相談し、結婚を機に専業主夫として30年やってきました。当初は、専業主夫を認めてくれる人はいなかったのですが、



7月1日(土)
開催

女性のための健康セミナー (5回シリーズ) ☒

講師

かねしげ えみ こ
金重恵美子さん (医学博士/岡山中央病院副院長) ☒



「元気ですか あなたの子宮」(第2回)

第2回では、子宮筋腫・子宮内膜症・子宮ガンについて、お話をさせていただきました。

「子宮筋腫の治療法は、長年の子宮摘出を原則とする時代から、保存的治療法が選択肢に加わった時代へと変化し、薬物療法や手術を含めさまざまな治療が行われています。子宮内膜症は、20~30歳代で発病し、治療法は薬物療法、次に手術という選択順が一般的となっています。昔は、女性が産む子どもの数が多く、月経の頻度が少なかったため、内膜症は少なかったのですが、現代

の高齢出産、少子化未産の影響から、今増加している病気です。子宮筋腫も内膜症も、検診によって自分の子宮や卵巣の状態をよく知り、症状に合った治療法を選択する事が望ましいです。子宮ガンは、頸ガンと体ガンがあり、最近では体ガンが増加の傾向にあります。病気で子宮を取ったら子宮ガンにはなりません、子宮ガン検診で卵巣や膣の異常等も分かるので、年1回の婦人科検診を受ける事が大切です」。

8月5日(土)
開催

「更年期は幸年期!？」(第3回)

第3回では、更年期を幸年期にするために必要な「正しい知識」と「十分な備え」について、お話をさせていただきました。

「更年期障害と呼ばれるさまざまな症状は、女性ホルモンの低下により現れるものなので、女性ホルモン補充療法(HRT)が有効です。ホルモン補充療法は、更年期症状を改善するだけでなく、骨粗鬆症の予防、うつ予

防、認知症予防など様々なメリットがあり、閉経後の女性の生活改善薬といえます。更年期は、生活習慣を見直す良いチャンスであり、大人の女性、人間として成熟する大切な時期です。寝たきりにならず、元気で自立したお年寄りを目指すには、毎日のセルフケアが大事。中高年女性の健康は、将来社会の宝になるはず」。

9月2日(土)
開催

「からだが変われば ころころが変わる」(第4回)

第4回では、ライフステージ別のころころの健康づくり、女性とスポーツ・運動について、お話をさせていただきました。

「女性の健康には女性ホルモンが深く関わっており、月経、妊娠・出産、更年期などが心身に与える影響は大きい。また、男性の約2倍多い「女性のうつ」について、「うつ病はどんな人におきやすいか?」と「その対策」を説明していただきました。

「女性とスポーツ・運動」の話では、「筋力トレーニングや、ウォーキングなどの有酸素運動を行うことで、心身の状態を良くして、ストレスを貯めない生活を送れば、病気を予防できます。背筋をピンと伸ばして颯爽と歩けば、それだけでもエレガント。服装だけでなく、からだに投資して、シンプルに生きることが年とともに重要になってきます」と語っていただきました。

●日本司法支援センター(愛称「法テラス」)開設のお知らせ●

日本司法支援センター「法テラス」は、法的トラブルを解決するための情報やサービスを誰でもどこでも受けられるよう、全国に50カ所以上の事務所を置き、10月より以下の業務を開始します。☒

- 情報提供☒
法的トラブルの解決に役立つ情報の無料提供☒
- 民事法律扶助☒
資力の乏しい方のための無料相談や裁判費用などの立替え☒
- 司法過疎対策☒
弁護士がいないなど法律サービスを受けることが難しい地域での適切な料金での法律サービスの提供☒
- 犯罪被害者支援☒
被害者支援に詳しい弁護士や支援団体などに関する情報の無料提供☒

○国選弁護関連業務☒

国選弁護人を確保し、捜査から裁判まで一貫した国選弁護体制の整備☒

法的トラブルを解決するのにどのような方法があるのかわからない、どこに相談すればよいのかわからない、といったときは、法テラス受付までお気軽にお電話ください。☒
あなたの抱えたトラブル解決に最も適した相談窓口をご案内します。☒

●一般相談案内 0570-078374 ☒

●犯罪被害者相談案内 0570-079714 ☒

●法テラスホームページ <http://www.houterasu.or.jp> ☒

■日本司法支援センター岡山地方事務所☒

☎050-3383-5491 ☒

受講生募集

●「夢へのチャレンジ」
～科学者として 女性として～



日時：平成18年12月2日(土) 13:30～15:30
講師：米沢 富美子さん
(慶應義塾大学名誉教授、物理学者)
会場：ウィズセンター
定員：120人(先着順)
申込期限：平成18年11月29日(水)まで
申込方法：電話、FAX、はがき、Eメール(danjo@pref.okayama.lg.jp)で①氏名(ふりがな)、②電話番号をお知らせ下さい。
申込・問合せ先：086-235-3307 (ウィズセンター)

●キャリアアップ講座 ～女性のチャレンジ支援事業～
再就職応援コース (岡山地区)

結婚・出産・育児・介護等でいったん仕事を中断し、再就職を希望する女性を対象に、パソコンの基本操作と就業に関する知識を学んでいただく講座を開催します。
受講期間：平成19年1月24日(水)～3月2日(金) (期間内の火～金曜日の23日間)
時間：10:00～16:00
会場：専門学校ビーマックス国際情報館 (岡山市島田本町) ウィズセンター
受付期間：平成18年12月19日(火)～12月22日(金)
内容：スキル編…パソコン検定(エクセル)3級程度の技術
アビリティ編…『働く前に知っておきたいワークライフセミナー』
「応募書類の書き方」「面接対策」「ビジネスマナー」等
定員：28名(選考により決定)
申込・問合せ先：086-235-3309 (ウィズセンター就業相談窓口)

●公開講座 (岡山地区)

キャリアアップ講座・アビリティ編の一部を公開講座としてしています。
働きたいと希望されている女性であればどなたでも受講できます。

受講日	平成18年12月12日(火)	平成19年2月28日(水)
時間	10:00～16:00	
会場	ウィズセンター	
申込締切	平成18年12月8日(金)	平成19年2月23日(金)
内容	応募書類の書き方	労働契約・社会保険・税金
講師	宮下 清人さん (キャリアコンサルタント)	中前 貴子さん (社会保険労務士)

*申込・問合せ先 086-235-3309 (ウィズセンター就業相談窓口)

●「親子で学ぶ ケータイ電話の危険性!」

日時：平成18年10月29日(日) 10:30～12:30
講師：山川 加奈子さん (NPO法人 いきいき将来設計工房)
会場：津山市立図書館 視聴覚室 (津山市新魚町17アルネ・津山4階)
定員：小学校高学年以上の親子50人(多数の場合抽選)
申込期限：平成18年10月20日(金)まで
申込方法：電話、FAX、はがき、Eメール(sun-sun@city.tsuyama.okayama.jp)で、①住所、②氏名(保護者名、お子さんの氏名・学年)、③電話番号をお知らせ下さい。
申込・問合せ先：0868-31-2533 (津山男女共同参画センター)

ウィズライブラリー

～ 生き方・働き方再考 ～

図書



『いまの私が好き』

- ・チームいま好き著/広岡守穂監修
- ・ユック舎(2006年)

文部科学省の委託事業として実施された「みんなで1冊本を作ろう!ライター養成講座」で出会った仲間たちが本当に本を作ってしまった。取材した人もされた人も今を生き生きと自分を輝かせながら生きていく人々です。「元気」と「勇気」と「本気」がいっぱい詰まった本。

図書



『ワークライフバランス社会へ 一人が主役の働き方』

- ・大沢真知子
- ・岩波書店(2005年)

仕事もプライベートもともに充実させる働き方や生き方ができる社会とは? 現在の日本社会が抱える雇用の問題、格差の拡大をどう解決すればよいのか。そのビジョンを描きながら、これからの社会のイメージを探る。

ビデオ



『元気に再チャレンジ! ～キラキラしている女性たち～』

- ・内閣府男女共同参画局(2006年)
- ・25分

家事と育児に明け暮れる主婦が再び社会で働きたいと思い立ち、再就職に向けてチャレンジしていくストーリー。実際に再就職を果たした女性たちの声も交えながら、再チャレンジを目指す人に力強いエールを送る。

ビデオ



『体験! 発信! チャレンジ・ストーリー ～まちづくりにかける元気な女性たち～』

- ・内閣府男女共同参画局(2006年)
- ・39分

まちづくりにかける元気な女性たちが、派遣されたアドバイザーと共に自分たちの夢を実現するためチャレンジする姿を追った1年間の物語を3部構成で収録。より詳しいDVD版(87分)もあります。

ウィズフェスティバル2006

岡山県男女共同参画
推進月間事業

テーマ

♪共同参画 あなたも賛歌♪
～新たな自分を再発見～

開催日 11月4日(土)～12日(日)

会場 岡山県男女共同参画推進センター(ウィズセンター)
(オープニング行事は、NTTクレド岡山ビル1階ふれあい広場)

11月4日(土)

- オープニング……12:15～
開会宣言、鼓笛隊演奏(若草保育園)
- 開会式……12:45～13:30
開会あいさつ、表彰式、アカペラコーラス
- 記念講演会……13:30～15:30
「21世紀は個性の時代
～カゲキに生きてみないか～」
講師:志茂田景樹さん(作家)
定員150人(10月27日(金)必着、先着順)
※手話通訳あり
- 18:00～19:30(主催:日本色彩福祉協会)
ワークショップ「色の不思議さと詞のパフォーマンス」



11月10日(金)

- 10:00～12:00(主催:CTくらぶ)
ワークショップ「幸せを育む素敵な人間関係」
- 13:30～15:30(主催:おかやま女性国際交流会)
講演会「南極から地球が見える」
講師:中山 由美さん(朝日新聞東京本社社会部記者)
定員70名
- 18:00～19:30(主催:世界女性会議岡山連絡会)
ワークショップ「持続可能な社会へのプロムナード」

11月11日(土)

- 13:30～15:30
ウィズカレッジ「50代からの健康講座」
講師:辻 博明さん(岡山県立大学情報工学部・スポーツシステム工学科、
同短期大学部健康福祉学科教授)
定員50名(男性のみ、先着順)

11月5日(日)

- ビデオ上映
11:00～「折り梅」(111分)
14:30～「ホーム・スイート・ホーム」(112分)

11月8日(水)

- 10:00～11:30(主催:イープくらしきネットワーク)
ワークショップ「昭和・平成 歌声にのせて」

11月9日(木)

- 10:40～12:00(主催:岡山県農産漁村生活交流グループ協議会)
活動事例と自慢の逸品紹介
- 13:00～14:30(主催:岡山県農産漁村生活交流グループ協議会)
講演会「農村の豊かな自然を守るために」
講師:常光真裕実さん(広島県、農事組合法人役員)

11月12日(日)

- 10:00～12:00
竖琴ライアと歌のコンサート
今井 千晶さん(音楽家)
講演会「心の法則 ～しあわせへのステップアップ～」
講師:大賀 康弘さん(心理セラピスト)
- 13:00～14:30
ウィズセンター登録団体交流会



※電話、FAX、ハガキ、またはEメールで①希望行事名、
②氏名、③電話番号を明記して、お申し込みください。

同時開催 パネル展 11月4日(土)～12日(日)

- ウィズセンター登録団体パネル
出展団体:イープくらしきネットワーク、岡山さんかく会、岡山市退職女性教職員の会、おかやま女性国際交流会、岡山女性フォーラム、岡山県交通安全母の会連合会、外国人相談センター、CTくらぶ、世界女性会議岡山連絡会、(社)被害者サポートセンターおかやま、メディア・フォーラムおかやま
- 男女共同参画啓発パネル(NTTクレド岡山ビル1階エントランスホール)

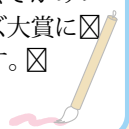
喫茶コーナー

11月8日(水)
11:00～15:00
中国茶とお菓子(実費)



表紙の絵

表紙の写真は、平成17年度に男女共同参画をテーマに募集しました「絵てがみコンテスト」でウィズ大賞に選ばれた作品です。





ウィズセンターは **土・日曜日**も開館しています。☑
お気軽に、お越しください。☑

センター施設の利用について ☑ シリーズ No.5 ☑

◆ あなたの悩み事の相談に応じます 相談コーナー編 ◆

★一般相談コーナー

女性相談員が配偶者等の暴力（DV）、夫婦・親子の関係、職場の人間関係、性や身体のことなど、様々な問題の相談に応じます。また、弁護士、医師による特別相談も行っています。

- 相談方法 電話または面接
- 電話 086-235-3310



★就業相談コーナー

就業相談員が“働きたい”と希望している方や“働きたい”と思っている方に就業に関する様々な相談や情報提供を行い、キャリアアップ講座等あなたのチャレンジを応援しています。また、コンピューターによる職業適性診断を受け、就職活動に役立てることもできます。気軽に窓口へお立ち寄り下さい。

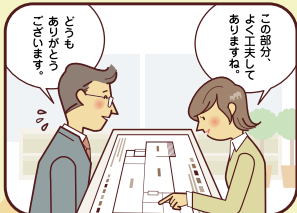
- 相談方法 電話または窓口相談
- 電話 086-235-3309

※相談料はいずれも無料



男女が共に輝く おやかまづくり

課長は男？



重要なポストに女性はいない、という思いこみから、女性の存在を無視してしまったことはありませんか？

ウィズセンターの紹介☑

男女共同参画社会とは、男女の人権が等しく尊重され、お互いが支えあい、利益も責任も分かちあえる、いわば、女性と男性のイコール・パートナーシップで築き上げるバランスのとれた本当に豊かな社会です。ウィズセンターはこうした男女共同参画社会づくりを推進していくための施設です。

- 情報提供**
 - 図書・ビデオの貸出
 - 人材情報・各種団体の活動情報の提供
 - 男女共同参画に関する資料の閲覧
- 各種講座**
 - 男女共同参画に関する各種講座の開催
- 相談**
 - 女性の相談員による様々な悩み相談
 - 弁護士・医師による相談
- 就業支援**
 - 就業相談
 - 就業に役立つ講座の実施
 - 就業に関する情報の提供
- 交流**
 - 各種団体へ活動・交流の場と機会を提供
- 広報**
 - 情報誌の発行（年4回）
 - メールマガジンの配信（毎月）

DV防止法に基づく「配偶者暴力相談支援センター」としてDVに関する相談や情報提供を行っています。

ウィズセンター利用のご案内☑

- 開館時間☑** 火～土曜日/9:30～20:00☑
日・祝日/9:30～17:00☑
- 休館日☑** 月曜日及び年末年始☑
- 相談員による ☑** 一般相談☑ 火～土曜日（祝日を除く）/9:30～17:00☑
就業相談☑ (受付は16:30まで)☑
- 特別相談☑** 弁護士による法律相談/原則第2・4金曜日☑
(予約制)☑ 医師によるこころの相談/原則第1・3金曜日☑
医師によるからだの相談/原則第1土曜日☑
- 電話☑** 086-235-3307（代表）☑
086-235-3310（一般・特別相談）☑
086-235-3309（就業相談）☑
- ホームページ☑** <http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/danjo/>



- 交通案内☑** 岡山駅から徒歩10分☑
バス/NTT岡山前下車すぐ☑
天満屋バスターミナルから徒歩2分☑
市内電車/郵便局前下車すぐ☑

センターへのご意見はご遠慮なくハガキ・FAX・Eメールまたはセンターの提案箱へ

ウィズ秋号 (vol.38) 2006年10月発行☑
編集・発行/岡山県男女共同参画推進センター (ウィズセンター)☑
〒700-0821 岡山市中山下1-8-45☑
NTTクレド岡山ビル17階☑
TEL (086) 235-3307(代) FAX (086) 235-3306☑
Eメール: danjo@pref.okayama.lg.jp